

平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)

実施報告書

HT25176

【プログラム名】飛鳥時代の古代寺院を知ろう～飛鳥寺と川原寺～



開催日：平成25年7月28日(日)

実施機関：関西大学千里山キャンパス
(実施場所) (第一学舎・関西大学博物館・高松塚古墳壁画再現展示室ほか)

実施代表者：米田 文孝
(所属・職名) (文学部・教授)

受講生：小学校5・6年生20名

関連 URL：

【実施内容】

■プログラム実施上の留意・工夫点

プログラムを効果的かつ円滑に実施するため、以下の点に留意・工夫した。

①事前に該当学年の小学校社会科教科書を検討し、実施分担者や実施協力者とも協議を重ねて、小学生5・6年生が実施内容を総合的に理解できるよう、基本的な実施内容とスケジュールを策定した。

②実践的な授業を展開する目的から、実習教材として本学考古学研究室が明日香村所在の川原寺裏山遺跡から発掘した三尊塼仏の焼型(凹型)を作成し、復原品の製作体験を実施した。また、実習会場として、手洗場を完備された特別教室を用意した。

③受講者の事前学習が可能になるように、本プログラムの簡単な趣旨説明と会場となる博物館や高松塚壁画再現展示室などに関する資料を送付した。あわせて、当日にはご父母との事後学習資料として、飛鳥地域の主要遺跡に関する冊子(A4判102頁)を配布した。

④実施当日には、5名を1班とする4班で行動し、各班には実施協力者各1名を配当した。なお、各班は受講希望者の学年や実施協力者の力量などを勘案して事前に編成し、実施協力者が指導する塼仏復原製作工程については、入念な事前シミュレーションを行った。また、埋蔵文化財担当者である本学非常勤講師2名(ボランティア)の支援を受けたが、実務者による補助・説明は受講生の関心を高揚し、効果的であった。

⑤事後には、受講生に科学する心の要点を解説したプログラム参加への礼状とともに、各受講生に塼仏製作実習時、および第一学舎エントランスにおける集合記念写真(2枚)を送付した。

■プログラム実施当日のスケジュール

- 10:30～10:50 集合・受付、四神着ぐるみ〔飛鳥戦隊シンジジャー〕による歓迎〔あすかの庭〕
- 10:50～11:00 開講式(挨拶、科研費についての説明、オリエンテーション等)〔第一学舎教室〕
- 11:00～11:40 ミニ講義「飛鳥の古代寺院」、CG「飛鳥寺と飛鳥大仏」上映
- 11:40～12:00 授業内容に即した飛鳥クイズの実施
- 12:00～13:00 昼食・休息(受講生・ご父母との懇談)
- 13:00～13:10 紙芝居「川原寺ものがたり」の上演
- 13:10～14:30 実習(川原寺裏山遺跡出土の三尊塼仏の復元品製作実習(各受講生2枚製作))
- 14:30～15:00 クッキータイム(受講生・ご父母との懇談)、CG「石舞台古墳～巨大古墳築造の謎～」
- 15:00～15:50 考古学研究室、博物館展示室、高松塚古墳再現展示室の見学と解説(各班別巡回)
- 15:50～16:00 小休憩〔第一学舎教室〕
- 16:00～16:30 修了式(未来博士号授与・アンケート記入)
- 16:30～17:00 記念集合写真の撮影、飛鳥戦隊シンジジャーとの交流撮影会、解散〔あすかの庭〕

■プログラム実施の様子

今回のプログラムの特色である

- ①飛鳥時代と古代寺院についてのミニ講義と、到達度確認目的の飛鳥クイズ
- ②三尊塙仏の復原品製作実習を中心に概観しておきたい。

①飛鳥時代と古代寺院についての講義では、5年生と6年生では授業進捗度が異なることを前提に、難解な専門用語の使用は基本的に避け、画像(パワーポイント)を多用して、感覚的に把握してもらうように説明した。そのため、関心が画像に集中して体系化できなかった受講生が多かったと見受けられたが、飛鳥クイズの結果をみると、予期以上に理解・把握した受講生が散見できたことは救いであった。理解度の不足している受講生に対しては、塙仏制作時の待ち時間を活用して各班の担当者が質疑応答形式で補足したが、講義と実習との円滑な接続が今後改善すべき課題である。



②三尊塙仏の復原品製作では、各班の担当者を中心に飛鳥時代における仏像の多様な在り方を説明しつつ、受講生各自の自主性を重視して進めた。単なる粘土細工に終わらないためには、対象学年を再検討する必要があるかもしれないが、実践的に楽しく学ぶという観点からみた場合、教室は一体化していたと思料できる。なお、ご父母が童心に戻ったかのように熱中される親子もあり、微笑ましい場面もあった。



■事務局との協力体制

事務局とは、実施代表者・実施分担者とも本プログラムの申請準備から採択、事前準備、プログラム実施、事後処理を通じて緊密に連絡を取りながら、迅速かつ効率的なプログラム推進に努めた。

■広報体制

関西大学小学校(高槻)の社会科と連携し、歴史に関心の高い児童の参加を募った。大学周辺に立地する小学校には、ポスター・チラシを持参して本プログラムの開催趣旨を説明すると共に、吹田市内の全小学校に資料を送付して受講生を募った。また、同日に開催された「関西大学博物館何でも相談会」の広報活動とも連携し、ポスター・チラシに募集案内を併載し、大学広報課を通じた大学の広報紙、HPなどに募集案内を掲載し、効率的かつ積極的な募集活動を実施した。

■安全体制

実習授業の円滑な遂行と安全確保のため、受講生5名に対し1名の割合で、大学院生の実施協力者を配当した。あわせて、作業の進捗状況に応じて補助の学部生2名が適宜各班を補助した。また、関西大学博物館、高松塚古墳壁画再現展示室、考古学研究室という、近接した場所をプログラム実施会場に設定して移動距離・時間の節減を図るとともに、不測の事態発生に備えて団体傷害保険に加入した。

■今後の発展性・課題

①今回の対象とした小学校高学年では午後のプログラムで疲労の色が濃くなり、緊張感が途切れがちな児童が散見された。その結果、塙仏製作実習・クッキータイム以降のプログラムを短縮し、全体で約30分早く切り上げることになった。今後の運用を考える場合、プログラムの工夫が要求される点である。

②飛鳥時代における古代寺院造営の歴史的な意義を総合的に理解する本プログラムの場合、小学校における授業進捗の問題もあり、予備知識(事前学習)なしには、必ずしも総合化・実体化できていなかったのではないかという課題がある。今後、小学生を対象にする場合は、さらに講義内容を絞り込み、丁寧な説明が必要であろう。この観点から、本プログラムの内容では中高生を対象としての実施が現実的かもしれない。

③当初予期した以上に三尊塙仏の復原品作製という実習的なプログラムは受講生の関心も高く、集中度も高い傾向が顕著に看取できた。人文科学分野のプログラムにおいても、受講生が実習・体験する時間を多く設定することが、充実した成果を獲得できる方策のひとつであろう。そのためには、実施代表者はもちろん、実施分担者や実施協力者の入念な事前準備が必要不可欠である。

④今回のプログラムでは実施代表者の意図から、実施協力者として将来の選択肢として教職を視野にした考古学研究室所属の大学院生・学生を依頼したが、インターンシップとしての機会とすることもできる相互に貴重な機会でもあった。



【実施分担者】

山口 卓也	博物館・学芸員
石立 弥生子	博物館・学芸員

【実施協力者】 6 名

【事務担当者】	政木 加壽沙	研究支援グループ
	辻 美穂	研究支援グループ